

祝・記念日！Happy Anniversaries

素晴らしい記念日を迎えることは、いつでも待ち遠しいものです。2012年は、そんな記念日の当たり年で、3つの記念日が一度にやってくるため、お祝いイベントが目白押しです。イベントの主演は、エリザベス女王陛下、ジェームズ・ボンド、そしてチャールズ・ディケンズ。

まず、エリザベス女王陛下の即位 60 周年。

父ジョージ 6 世逝去のため、公式訪問中のケニア、ツリーハウスから急遽帰国し、エリザベス女王の時代が始まりました。現在まで 12 名の首相を任命し、清楚な手袋で何百人もの人々と握手をかわし、最高位の英国代表として、世界中を訪問しています。

今年で本当に即位 60 周年？というのが私の率直な印象ですが、思い起こせば、即位 25 周年を祝う、夏の街頭式典で女王を拝見したのは 35 年前、1977 年でした。ちなみに 1977 年は、ウィンブルドン選手権で英国人選手バージニア・ウェードが女子シングルで優勝した記念すべき年でもあります。また同じことが起こり、今度はアンディ・マレー選手がウィンブルドン選手権での功績を讃えてもらえるかも？

女王の印象は、私が子供のころから殆ど変わっていません。その頃も、熟練していると思いましたが、正直、今でもそのような印象が。変わったところと言えば、髪が少し白くなったことくらいでしょうか。女王は常にどのような場でも、堂々と中立の立場で、肅々と公務をこなされています。女王はプライベートなことを公にすることはあまりなく、我々が知っているのは、動物好きだということだけです。以前、どのサッカーチームを応援しているかと尋ねられたときには、「全チームを応援しています。」と完璧な回答が返ってきたように、自分の意見は胸にしまい、公平さを欠く表現や部分的に取り上げられるような発言は避けられているようです。

つぎは、ジェームズ・ボンド 007 シリーズ 50 周年。

タキシードに身を包み、女性やおしゃれな小物で身の回りを飾り、マティーニをたしなみ、粋な銃撃シーンで始まる、女王に忠実な英国情報部のエース諜報員、ジェームズ・ボンドの映画が誕生してから、今年で 50 周年を迎えます。熱烈なファンの期待に応え、23 作目の新作「007 スカイフォール」は、今年秋に公開される予定です。ボンドはこれまで、6 人の俳優によって演じられてきました。イングランド、スコットランド、アイルランド、ウェールズ、ニュージーランドの各地域から、代表的な俳優が選ばれています。現在のボンド役は、イングランドの俳優、ダニエル・クレイグです。

なぜ、こんなにも長いシリーズになったのでしょうか？観客の興味を惹きつける作品を作り続けていること、敏腕プロデューサーによって、ロングランが可能な映画館で上映しながら、ボンド人気の本質を見極め、シリーズの質の維持・向上に努めてきたこと、また、公開映画のピークを見極め、絶妙なタイミングで次の作品に切り替えるなどの手法を採っているからではないでしょうか。ボンドの役柄にも、新しい見どころを加えています。例えば、完全な禁煙者になっていたり、前作よりも女性に配慮するボンドの一面が見えたりと。

ボンドシリーズは、史上最高の人気を博しているもので、新作も大ヒットになるのは間違いないでしょう。ただ、個人的には、新作「007 スカイフォール」は、今までの「007 は二度死ぬ」や「007 ロシアより愛をこめて」の足元には及ばないように思えます。音楽は、偉大なジョン・バリーが恋しい…かな。

そして、最後の締めくくりは、チャールズ・ディケンズの生誕 200 周年。

ディケンズは、多くの作品を世に送り出し、1,000 近いキャラクターを鮮やかに描きあげた英国を代表する小説家と言えるでしょう。今年はその偉大な作家の生誕 200 年です。読み終えるのに何十年もかかるほどの作品を書き上げるという、驚異的な偉業を成し遂げました。彼の作品は、時間に追われる現代でも読み継がれています。時代を超えて愛される傑作集です。

ディケンズの作品は、学校指定の文学集や、ハリウッド映画の原作として、また 200 年もの間、愛され、人々の心を揺さぶる文学作品として生き残っています。ディケンズのような作家は、今後、現れないと思いますが、彼のメッセージに込められた信条、流儀、豊かな知性は、いくつもの時代を超えた今でも、我々に影響を与え続け、彼の類まれな才能に対する議論は絶えません。

このような 3 つの記念日を祝うことによって、記念イベントを主催するビジネスも活気づいています。世界は日々、目まぐるしい速さで変化を遂げています。その中で、変わらず存在し続ける、貴重な存在に触れることは、未来への新たな指針になるのではないのでしょうか。

もちろん、ディケンズの作品が発表された時代と現代では、感じ方に違いがあります。彼も「it is a succession of changes so gentle and easy that we can scarcely mark their progress.」とコメントしているように。

参考情報:

<http://www.dickens2012.org/>

<http://www.2012queensdiamondjubilee.com/the-diamond-jubilee/diamond-jubilee-events>

<http://www.beaulieu.co.uk/attractions/bond-in-motion>

Written by Philip Patrick

Copyright © British Council, All right Reserved